

避難所での炊き出しと「困っていることはありませんか？」の呼びかけ

府職労「西日本豪雨」救援ボランティア【第2弾】



倉敷市船穂公民館

災したり、業務のため参加できなくなった組合員もいました。温かい豚汁やたこ焼き、かき水を炊き出し7日午後には大阪を出発し、夕方に避難所となっている公民館へ向かい、夕食時間に合せて、豚汁・たこ焼きの炊き出しに加えて、あてもん(くし引き)、かき氷なども提供しました。避難所の夕食は現在もお弁当の配布ですので、炊き出しは避難生活が長引いているみなさんや学校から帰ってきた子どもたちたいへん喜ばれました。

500軒の被災者宅を訪問

翌日8日は、悪天候のため、倉敷市ボランティアセンターの受け入れが中止となったため、急きょ「災害対策・被災者支援岡山県連絡会」のみなさんと一緒に、被害の大きかった真備町岡田地区の住民のみなさん

翌日8日は、悪天候のため、倉敷市ボランティアセンターの受け入れが中止となったため、急きょ「災害対策・被災者支援岡山県連絡会」のみなさんと一緒に、被害の大きかった真備町岡田地区の住民のみなさん



参加者の感想

- 初めて参加。雨で残念でしたが、炊き出しもできて良かった。真備町は2階まで被害があったことを知り、悲しかった。
- 一軒一軒訪問したが誰もいない家が多く、この先どうなっていくのか不安を感じた。
- 支部から青年2人を含めて4人で参加できてうれしかった。何かを感じ取ってくれたと思う。生活感のない町が悲しい。真の復興まであと何年かかるのか。住民の方が明るく力をもらった。
- 初めて参加して、真備町を見てショックだったし、生活できないと感じた。次回も参加したい。炊き出しで「ありがとう」と言われて役に立ててうれしかった。
- チラシ配布で街並みを見て生活できないと感じた。ポストの中まで泥が入ってショックだった。炊き出しであったかいものがとても喜ばれ、とてもやりがいがあった。
- 生活できる状況ではない。炊き出しもあったかいものが喜ばれてうれしかった。みなさんの心に残って「また頑張ろう」と思ってくれたら私もやりがいがある。
- あったかいものは本当に喜ばれた。災害の大きさにショックを受けた。また必ず参加したい。
- まだまだ支援が必要。炊き出しで笑顔になれる瞬間が提供できたことが本

医療の現場から 府民のいのちと健康を守る府立病院に ⑨

はびきの医療センター 川澄 浩美

私は、はびきの医療センターで臨床検査技師として働いています。当センターには、喘息から肺腫瘍内科までの様々な呼吸器疾患や、アレルギー疾患、結核などの診療科、さらには、婦人科、乳腺外科、耳鼻科、眼科など、多岐にわたる診療科があります。

現在、臨床検査科には24人の常勤技師と14人の非常勤技師が在籍しており、当センターの特性上、特殊な検査も数多く行っています。通常、当センターの規模の検査室では、血液検査室担当者

私は、はびきの医療センターで臨床検査技師として働いています。当センターには、喘息から肺腫瘍内科までの様々な呼吸器疾患や、アレルギー疾患、結核などの診療科、さらには、婦人科、乳腺外科、耳鼻科、眼科など、多岐にわたる診療科があります。

技術・知識の継承が課題 当センターの検査室は若手の割合が高いこともあり、勉強熱心で活気があります。ただ、長い間、検査技師の採用がなかった時期があり、年齢構成が非常に歪で、本来なら一番厚い層であるはずの30代後半から40代の

何ができるか不安があったけど役に立ってうれしかった。道路はきれいになっても家の中がボロボロでショック。炊き出しはたこ焼きも喜ばれた。次も参加したい。



大阪での開催でもあり、府職労からは事前会議、大会運営委員も含め55人が参加し、小松副委員長が大会

「患者もスタッフも どちらも大事に守りきる」病院に 能検査室担当者は生理機能検査だけを行うことが多いのですが、当センターの検査室では、血液検査とエコー検査、病理検査と輸血検査など、二足のわらじを履いている技師が数多く存在します。

「患者さんと自分」を天秤にかけるのは間違いで、「どちらも大事に守りきる」が正解。人員不足を無くし職場環境を整えることは、患者さんも自分も守るために必要なことだと考えます。



小松 副委員長 発言する

改めて、職場の中に労働組合を根付かせ、民主的な職場、自治体づくりを進める重要性を実感しました。特に、倉敷市職労の代議員が被災状況や自治体の現状と府職労の活動を紹介し、府職労の取り組みに励まされていると感謝の気持ちを発言されました。